

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400383
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	グループホームサルビア
所在地	〒796-0031 八幡浜市江戸岡1丁目2-9
自己評価作成日	平成22年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の気の向くままに、のんびりと過ごしていただける雰囲気づくりをしていきたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人に提案して、事業所の建物の周りの敷地内を利用者が散歩しやすいように整備してもらえるようになってい。管理者は、日々職員の「いいところ」を探しながら声をかけるようにされており、又、職員が「自分で考えられるよう」な言葉かけに気を付けておられる。昨年からは職員個々に「広報」「家族会」「危機管理」等の担当を決め、責任を持って運営に参加できるように体制作りをすすめられ、職員それぞれがアイデアを出しながら取り組みをすすめておられる。 朝市場で新鮮なお魚を買ってお刺身にされたり、医師とも相談して味付け等もふつうにされて、食事が進みやすいようにされている。ミキサー食や刻み食の方もいるが、お好きなものはそのまま食べられるように見守り、又、食材等によって調理方法を替えておいしく食事ができるよう支援されている。又、甘酒等も採り入れてカロリーを摂取できるような取り組みもみられた。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームサルビア

(ユニット名) えくぼ

記入者(管理者)

氏名 水口泰如

評価完了日

平成 22 年 7 月 1 日

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念には管理者の思いが凝縮されており、それに基づいた的確な状況判断ができるようになってきた。	
			(外部評価) 「あたりまえ」を事業所の理念に掲げて、利用者があたりまえに地域と交流しながら暮らし続けられるよう、事業所は地域の人との関係作りに努力されている。又、新たに作成中のパンフレットには理念を大きく示す予定となっていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 昨年度は新型インフルエンザの影響で集客行事をはじめ、地域の方々との交流活動も自粛したため、殆どといっていいほど地域とのつきあいができなかった。	
			(外部評価) これまでの一年間は、新型インフルエンザの流行のこともあり、事業所開設5周年記念の開催等も予定されていたが、延期して地域の方々との交流を控えておられた。	今年度、事業所では、いろいろ工夫して地域とかかわる機会を計画されている。10月には、事業所の6周年記念イベントで「餅つき」を行い、民生委員の方や近所の人達との交流を深めるような計画をされていた。又、市内の他グループホーム管理者と共同で、公民館等を利用して「無料介護相談」を行うような計画もある。事業所の裏手には、民家が複数あり、事業所の菜園等の話題でフェンス越しに会話することも多いが、行き来は少ないようで、管理者は、敷地を囲むフェンスの一部を開放して勝手口を作り、近所の方に気軽に来ていただきたいと考えておられる。事業所では「近所の方達との距離が近くなる」ような取り組みをすすめ、事業所のことをさらに知っていただきたいと努力されている。今後、法人を含めた話し合いを重ね、事業所自体が地域の一員として日常的に交流できるような環境作りに工夫し、さらに地域の方々とのおつきあいを深めていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 当ホーム主催の公開研修会を地区公民館にて毎年行なうようにしているが、それに加え今年度後期から同公民館にて定期的に介護相談を実施したいと考えている。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議のメンバーにはホームの現状を十分に理解して頂き且つ、適切な助言を頂いている。また、地域の思いを代弁して下さり当ホーム進むべき道、地域での役割を示唆していただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民生委員・介護相談員・市内の他グループホームの方やご家族の代表者1名に案内して、個々、ご都合等に合わせ出席して下さっている。会議では、事業所の利用者等の現状の報告をされたり、事故報告書やヒヤリ・ハットの事例等を報告して、他グループホームの取組み等も聞きながら意見交換をされている。</p>	<p>さらに、いろいろな立場の方の参加を働きかけ、事業所の取組みを知っていただいたりご意見をうかがってみてほしい。ご家族へは、会議の意義や内容を知らせ、参加いただけるよう促してみてもどうか。さらに、管理者は、会議の議題について、参加者に合わせた内容を検討していきたいと話しておられた。今後、年1回程度、地区内の他グループホームと合同で運営推進会議を開催して、委員の方同士でも話し合えるような会議を行いたいと考えておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言頂いているが、それ以外にも困難事例の相談や入居相談等何時でも丁寧に好意的に対応して下さっており、大変心強く思っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所のケアマネージャーは、要介護認定審査委員として、市と協働されている。毎月、介護相談員を受け入れておられ、運営推進会議に参加していただく事もある。</p>	<p>さらに、いろいろな立場の方の参加を働きかけ、事業所の取組みを知っていただいたりご意見をうかがってみてほしい。ご家族へは、会議の意義や内容を知らせ、参加いただけるよう促してみてもどうか。さらに、管理者は、会議の議題について、参加者に合わせた内容を検討していきたいと話しておられた。今後、年1回程度、地区内の他グループホームと合同で運営推進会議を開催して、委員の方同士でも話し合えるような会議を行いたいと考えておられた。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>開所以来現在まで身体拘束は行なっていない。『当ホームは身体拘束を行わない』ということ全職員に周知徹底している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、対応がむずかしいような事例であっても、ご本人の行動パターンや原因を分析して、身体拘束をしないケアの実践に努めておられる。</p>	<p>さらに、いろいろな立場の方の参加を働きかけ、事業所の取組みを知っていただいたりご意見をうかがってみてほしい。ご家族へは、会議の意義や内容を知らせ、参加いただけるよう促してみてもどうか。さらに、管理者は、会議の議題について、参加者に合わせた内容を検討していきたいと話しておられた。今後、年1回程度、地区内の他グループホームと合同で運営推進会議を開催して、委員の方同士でも話し合えるような会議を行いたいと考えておられた。</p>

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待若しくはそれに近い状況を創ってしまうことは経営者や管理者の責任である。高齢者虐待防止法云々ではなく『人としてあり方』から学ぶべきと考え、職員会やミーティングはもとより、日々の会話の中でも『良識ある一社会人の育成』ということを常に念頭におき職員に助言・指導を行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在別ユニットに1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。また、この制度利用についての研修会にも参加し、管理者・計画作成担当者のみではなく介護職員にも浸透させている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 定められたことはきっちり行っている。それらの行為に時間がかかるため重要事項説明書などは入居前に本人・ご家族にお渡しし、熟読して頂いた上で再度入居時に説明している。また外部評価結果表や運営規程・看取り指針等も契約時にお渡ししている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 直接入ってきにくい入居者からの不満等はさわやか相談員さんの意見等で汲み取るようにしており、ご家族からのものは外部評価時のアンケートや家族会行事の際に直接ご家族から聞くよう心がけている。それを職員会で検討したり、推進会議の場で発表し、委員の方々に助言を頂くようにしている。何でもものが言える関係構築に向け努力を重ねている。 (外部評価) ご家族が集まりやすいような日程等をご家族の代表の方が、提案して下さり、ご家族主導で「家族会」を開催されている。さらに、ご家族の「交流会」を事業所主催で行い、パーベキューやいも炊きをされて、ご家族が気軽に要望や意見を言っていただけのような関係作りに努めておられる。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は職員会やミーティング・日常会話等から職員の意見を聞き、逐一支店担当部長に報告するようにしている。また、毎月支店内で行なわれる部内会議、四半期に1度の施設長会議が開催され、西日本の全事業所施設長や管理者が一同に会し、介護事業における課題を検討すると共に汲み上げた職員の意見を提案・要望している。それにより職員の待遇面等改善しつつある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人に提案して、事業所の建物の周りの敷地内を利用者が散歩しやすいように整備してもらえるようになっている。管理者は、日々職員の「いいところ」を探しながら声をかけるようにされており、又、職員が「自分で考えられるよう」な言葉かけに気を付けておられる。昨年からは職員個々に「広報」「家族会」「写真」「レクリエーション」「危機管理」等の担当を決め、責任を持って運営に参加できるよう体制作りをすすめられ、職員それぞれがアイデアを出しながら取り組みをすすめておられる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>担当課長や担当事務員が月一回松山より来所し、管理者や職員の意見を聴取。特に、ハード面においての相談には速やかに対応してもらっている。 代表者とは支店事業部長を介し、必要な情報を上げている。また、職員の努力が報われるよう、資格取得者には手当を支給したり、定期的に勤務評定を行い、昇給や昇格を行っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は管理者の意見を正面から受け止め、特に人材育成については全スタッフに積極的に研修受講を勧めている。また、自主研修や資格取得に向けての研修希望者には勤務調整を行う等の配慮を行うよう管理者に指導されている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>GH連絡協議会や市主催のGH連絡会に参加することで交流できたり、互いに運営推進会議のメンバーであったり、特に近隣のGHとは十分に交流できているため互いに良い刺激になっていると思う。また、同社の介護事業所間でも四半期に1度交流を持ち、相互研修を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前には必ず本人宅(入院・入所中の方はその滞在先)を訪問し、時間をかけて話をじっくり聞くようにしているが、一回や二回の面接で信頼関係を築くということは不可能に近い。また、入居前には本人・ご家族の事前見学を原則としており、入居時の不安を少しでも軽減するよう努めている。殆どの場合、信頼関係作りは入居後から始まるため、じっくり時間をかけニーズを探るしかない。</p>	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初回の入居相談時には遠慮もあり、ご家族もなかなか詳しい話をして下さらないことが多いが電話や面接を重ねる毎にリラックスした雰囲気作りを行ったり、一回の面接時間をできるだけ長く取り、ご家族に在宅介護の苦労話等充分に吐き出して頂くよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回の相談時に本人・家族のニーズを見極め、適切なサービス利用ができるよう居宅のケアマネのつもりで相談を受けるように心掛けている。また、本人の心身状況により当ホームで提供できるサービスとできないサービスがあることを明確に説明している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に感じ、共に涙する関係ができている。新入職員もそれを肌で感じてくれていると思う。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は入居者本人に第二の家族として接しており、ご家族とはその立場で共に支援していく関係ができている。面会終了後には、『入居者への思い』のみならず、ご家族の生活状況等様々な話題でお話しさせていただくこともある。そういう時間を大切にするように心がけている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人やご近所の方々が面会に来られた際には再来をお願いしたり、茶菓子をお出しするなどして、ゆっくりと歓談して頂ける配慮を行っている。また、同伴外出をお願いしたり、来訪者と一緒に写真を撮り、毎月の『お便り』でご家族に配信している。 (外部評価) 利用者が行きたいところへは、ご家族と出かけることが多いようであるが、事業所から歩いて行ける範囲であれば、職員とともに墓参りに出かけたり、友人に会いに行ったりされている。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者個々の性格やその時の状態を考慮し、必要により入居者同士の会話の仲介を行ったり、お茶の時間には職員も一緒にテーブルについてその場を盛り上げるなどの雰囲気づくりをしている。また、精神状態が不安定な方の暴言等に他者が怯えないよう都度フォローして関係を守っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された入居者のご家族さんには、心強い協力者として行事へ参加下さったり、家族会を支援していただいている。因みに昨年度退居された方は1名のみであった。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で把握に努めている。リラックスした時間帯に利用者と思意思疎通をはかり、入居者の思いや希望を汲み取っている。	
			(外部評価) 誕生日は、ご本人に「ケーキがいいか、おまんじゅうがいいか」好みを聞いて、皆で食べながらお祝いされている。 職員は利用者個々の好み等をよく知っておられるが、さらに、個々が「やってみたいこと」等、暮らしへの意向を探って支援できるよう、アセスメントを工夫してすすめていかれてほしい。利用者も職員も楽しみながら取り組みをすすめていけるように工夫されてみてはどうだろうか。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者本人から日常会話の中で情報を得よう常に心がけている。また、情報が得にくい重度の方にはご家族から情報を頂き対応しているが十分に把握できているとは言えない。サービス利用の経過等は入居前の担当ケアマネージャーや包括支援センター職員より情報を頂いている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者個々の生活リズムや心身状況に応じた援助ができるよう常に心がけている。『本人の気の向くままに』が当ホームの援助の基本であるが、思い立ったら直ぐに行動に移したい方への対応には苦労している。全て把握できているとは言えない。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員全体で取り組むが、担当職員を主にケースカンファレンスを開催し意見をj得ている。面会時のご家族思いや評価、担当職員の思いが反映されたプラン作成ができるよう心がけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者やご家族に希望や要望をお聞きして、職員の気付き等を取り入れて介護計画を立てておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケース記録用紙は連記方式ではなく、1日毎に記録をする形式をとっており、上部に援助目標をプリントし、達成状況を記している。また、月間記録には評価に活かす事ができる様に月毎の様子を纏めるようにしている。 職員が休みの日は日誌で確認を行い勤務に就くようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者のご家族が宿泊されたり、一緒に食事や入浴をして頂いたり、できるだけご家族の要望に応えている。 入居者の状況に応じて通院等の支援を行い、入居者やご家族の満足が得られるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月1回さわやか相談員さんが訪問され、ホームの素顔を視て頂いている。また運営推進会議のメンバーである民生委員の方々も家族交流会にお誘いし参加頂いている。 消防署とは防災訓練を通じて種々のアドバイスを頂き、地域交流にも尽力頂いている。</p>	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・ご家族が希望する主治医となっている。2箇所の医 療機関から月2～3回往診を受けており、それ以外の医療機 関への定期受診については原則ご家族にお願いしている。但 し、緊急止むを得ない場合に限り職員が対応するようにして いる。また、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	
			(外部評価) 食事がすすまない利用者には、医師に栄養面や健康面 についてのアドバイスをいただくこともある。事業所 の6周年記念イベント時の「公開研修会」には、協力 医に講演をお願いする計画を立てておられた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置しているのので、何かあれば連絡をと り医療面での相談・助言等の対応ができるようになって いる。また、地域医療機関の看護師とは気軽に相談 できる関係を築いている。 往診時には同行看護師と情報交換や相談ができるよ う努めている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された時には管理者や担当者が主にお見舞い に行き、本人の様子観察を行うと共に医師や他の医療ス タッフと情報交換を行い、早期退院に向けての援助を 行っている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い終末期 のケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ、往 診対応をして頂いている医療機関ともGHの実情を充 分に理解して頂いているため協力的に対応して下さっ ている。現在のところ終末ケアを行った事例はない。	
			(外部評価) 家族会の際には、事業所から利用者等の現状を報告して、転 倒防止の取り組みや重度化、看取り支援等について話し合い ながら、ご家族の心配なこと等をうかがうようになっている。 ご家族は「どこまで事業所で看れるか」という質問も多 く、事業所は「家でできることを行う」ことをご家族に繰 り返し伝え、協力が必要なことも伝えておられる。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成しているが定期的には実施できていないのが現状である。毎年夏に行なう防災訓練時には避難訓練を行なった後に消防職員の方々に心肺蘇生訓練や応急手当の方法を直接指導いただいている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 幸いにも非常通報後消防署から2分で到着できる場所に位置している。一般的な避難マニュアルよりも立地条件を活かした『一人も死亡者を出さない』避難誘導方法を全職員に徹底している。火災のみならず震災・水害発生時の家屋倒壊を想定して阪神淡路大震災に最も有効であったという金梯子やパールを各ユニットに装備している。 『地域との協力体制を築く』とあるが、地域付き合いはギブアンドテイクの関係で成り立っている訳であり、災害対策としてではなく地域住民同士の関係構築に努力している。 (外部評価) スプリンクラーを設置されている。毛布を使って利用者を避難させる避難訓練では、職員は、利用者役にもなって訓練をされており「引っ張り方で不安を感じる」ということが分かり、工夫をされた。次回運営推進会議には、地震や水害を想定した訓練や、防災グッズの購入方法等の話し合いを行う予定となっていた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に入居者の立場に立ち、親しみの持った口調で声かけを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。個人的な相談等については、自室や他の利用者から閉ざされた場所で行うようにしている。 個人情報、外部に漏らすことのないよう、日々注意をするとともに職員会等で徹底している。 (外部評価) 利用者の呼び方等については、ご本人がその呼び方が馴染んでおられるということもあり、又、ご家族の希望もあって「～ちゃん」と呼ぶようにされている方もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるだけ個別で会話する機会を持ち、入居者の希望(思い)を汲み取って満足して頂ける援助が行えるよう努めている。また、満足して頂けなくても、せめて納得して頂けるよう日頃から信頼関係を築き、誠心誠意対応している。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先させることは決していない。『本人の気の向くままに』が当ホームの援助の基本である以上、食事・入浴・入眠時間等利用者のその日の気分に合わせている。深夜に覚醒された方についても飲物やおにぎり等を摂って頂き、口渇や空腹を満たして頂いている。 『いつでも』という訳ではないが、最近ご本人の希望時に簡単な買物や外出ができるようになってきた。また、本人と遠慮なく話ができ、日程調整ができる関係ができてきている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で衣類を選ぶ方が少ないため季節に合った衣類を職員が選びお勧めすることが多い。 出張美容が月1回来ており、それを利用されたり、ご家族が面会時に毛染めをされたりしている。 外出時には本人やご家族が化粧を希望される方がおられ、職員が手伝っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 生で食する物以外の食材の皮むきや切り込みを行って頂いたり、下拵えや下膳・食器洗い等の手伝いをして頂いている。 職員も同じテーブルで同じ時間に同じ物を食べながら、会話を楽しむようにしている。また、食材の産地の話や味付けの評価等も同時に行っている。 地域性を活かし、月に1・2度漁師から直接買い付けたり、早朝に朝市場に出向いたりして特別新鮮なお魚をお出ししている。	
			(外部評価) 事業所の食事は、決まった献立で食材が届き、事業所で調理する日と、週に2回、又、行事や誕生日には、利用者の希望を聞きながら職員が献立を立てて調理されている。朝市場で新鮮なお魚を買ってお刺身にされたり、医師とも相談して味付け等もふつうにされて、食事が進みやすいようにされている。ミキサー食や刻み食の方もいるが、お好きなものはそのまま食べられるように見守り、又、食材等によって調理方法を替えておいしく食事ができるよう支援されている。又、甘酒等も採り入れてカロリーを摂取できるような取り組みもみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスよりも基本的に食べて頂くことを最優先しており、しっかりと味付けにしている。医師やご家族より特別指示が無い限り、好きなだけ食べて頂いている。水分摂取も、定期的水分補給のほか、目覚めのコーヒーやTV観賞中・歓談時に飲み物をお出ししている。夜間覚醒時にはできるだけお茶やポカリをお勧めしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 強い拒否がない限り、毎食後口腔ケアを実施している。 歯科治療が必要な場合は協力医の往診で対応できる体制をとっている。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意・便意の曖昧な方については、排泄パターンを把握し、誘導する事でトイレでの排泄を促している。しかしながら、心身の機能低下によりホーム全体でオムツや紙パンツ・パットの使用者は増加している。	
			(外部評価) 利用者個々に合わせ、トイレに誘導されたり、介護用品等を利用して排泄の支援を行っておられる。トイレの電気を付けたままにして、扉を開けておくことで、利用者がトイレと認識して、ご自分で行きやすいようである。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事は野菜を多く摂れるよう調理の工夫を行っている。また、水分をしっかりと摂って頂くため夜間覚醒時やテーブルに着かれた際にはお茶やポカリをお勧めしている。 運動不足にならないよう散歩の声かけを行い、動いていただくようにしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員が2名以上いる場合は希望があれば、いつでも何回でも入浴して頂いている。	
			(外部評価) 午前7時から午後9時までは、職員が2名以上いるときに、利用者は入浴されている。お一人で入浴される利用者もあり、安全で自由に入浴できるよう、職員は、脱衣所等で見守りされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中は活動して頂くようにして生活のリズムを整えるようにしているが、生活習慣もあり本人のペースで生活して頂くことを基本にしている。疲れておられる時などは自室に誘導し休んで頂く等配慮を行っている。夜間睡眠時には特に室温管理に注意をしている。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケース記録綴に処方箋と効能書きを閉じ込んでいるので、いつでも確認できるようになっている。また、処方に変更になった際には主治医や薬剤師・看護師に説明を受け、確実に申し送りを行い、職員に徹底するとともに変更後約1週間はバイタルチェックの回数を増やして健康管理を行なっている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ガーデニングや菜園がお好きな方には水やりや、草引き等の手入れを積極的にして頂いている。また、野菜づくりのノウハウを職員に厳しく教えて下さる入居者もおられる。収穫日を指折り数えて待たれている姿は実に微笑ましい。ミニトマト等は散歩がてらの外出時に摘まれて食される。 誕生日会は主人公の希望を汲み、好みの食材を提供したり、ケーキでなく饅頭でお祝いすることもある。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 自己評価38と重複するが面会に来られたご家族や友達と一緒に外出して頂いたり、外出希望のあった方については、その時の心身状況や気象状況を踏まえ、職員が引率して買い物等に出かけている。以前は日常日中でもユニット単位での外出は可能であったが、身体面が重度化したため外出支援が困難となってきたのが残念である。現在は小グループで数回に分けて実施している。	
			(外部評価) 毎日、職員と散歩される方やお一人で出かける方もある。お一人で出られる方には「何時に帰るか」「どこに行くか」ということを職員が聞くようにされている。近々、野村のホワイトファームに出かけ、ケーキセットを楽しむ予定になっていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行った際には自分で管理できる入居者は自分で支払いをして頂いている。 ホームの食材や日用品を購入する際には入居者の散歩を兼ねて近隣のスーパーやドラッグストアへ出向き、買い物をを行うことで気分を味わっていただいている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持し、好きな時間帯にご家族と電話のやりとりをされている方を除けば直接電話をかけた、手紙を書いたりされる方は少ない。但し、その代行業を希望される方はおられるため、その都度対応している。また、その意思表示ができない方については意を汲み取り、面会要請の電話を職員がかけることはある。	

自己評価表(えくぼ)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>手作りの座布団カバーや暖簾等を作成し、使用している。 観葉植物を置いたり花を生けたりと家庭的な雰囲気が出るようにしている。 解かりにくい方のために、トイレに表示をしたり、廊下にテープで矢印を貼ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が「さみしくなるから、そのままにしておいて」と言われるために、天井に飾られているパーティー時の飾り付けはそのままにされている。玄関入口の花壇にはゴーヤが育っており、居間の日よけにもなっている。歌がお好きな方も多く、調査訪問時にはカラオケを歌ったり聞いたりして楽しんでおられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールにはソファを配置しており入居者や面会者が過ごすことができる場所を確保している。玄関横には長椅子を用意しており外気浴等を楽しむ事ができる。 テーブルの席も食事の際は自然と決まってくるが、些細な事で口論になったりすることがあるため席替えをする等臨機応変に対応している。それ以外は気の合う者同士が横に座り会話を楽しまれている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>できる限り自宅で使用されていた馴染みの家具等を持参して頂き、配置等にも配慮して自宅に近い環境をつくるようにしている。 寝る時以外はホールで過ごされる方が多いため殺風景な居室の方と物が溢れんばかりの居室の方と両極端である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>携帯電話でご家族とおしゃべりをされる方もある。ご家族の写真を飾り、時に思い出話をお聞きしたりして、顔を覚えておけるよう支援されている。ペットボトルにお茶を入れてお部屋で飲んでおられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>十分なアセスメントを行い入居者の行動パターンを十分に把握した上で、どの入居者にも安全な環境を提供できるよう心がけている。A氏には安全でもB氏には危険な環境になり得ることを留意し援助を行っている。そのため共用空間の環境づくりは困難を極める。</p>	